

テールアルメFS

テールアルメFSのFSの意味は、
フェイルセーフ&フェイルセンサー
Fail Safe and Fail Sensors
を意味します。

つまり、FSのSにはセーフとセンサーの二つの意味が重なっています。

これまでの表面的(不確定)な状態判定から、
セーフ・センサー機能により、「盛土内部の状態異常を安全に把握」できるようになる。

(特許第5899358号)

NETIS登録番号: QS-170031-A

フェイルセーフ(Fail Safe)機能

着目する部材等の機能が喪失した場合に、平常時には機能していない別に設けられた部材が機能することで、全体に致命的な影響が生じることを回避するようになっているものである。

(道路橋示方書・同解説 | 共通編 「1.6.2 構造設計上の配慮事項」より)

テールアルメFSではFSコネクティブAが切れたら、それまで機能していなかったFSコネクティブBが機能することでテールアルメの安全性を維持できるテールアルメ

フェイルセンサー(Fail Sensors)機能

テールアルメの異常(FSコネクティブAの破断)
を可視化する
(変状発生時のセンサー機能)

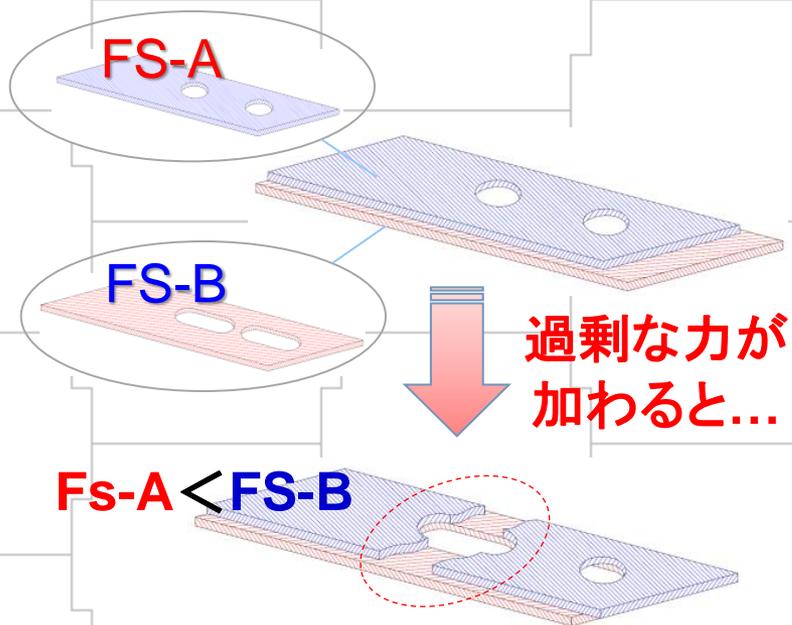
- ・突然の壁面脱落等を予防
- ・点検を単純で容易に
(見えないストリップの点検が壁面点検で可能に)
- ・FSコネクティブAが切れてからでも安全性を確保したまま調査, 対策検討, 措置が可能

(特許第5899358号)

NETIS登録番号: QS-170031-A

FSコネクティブ図解

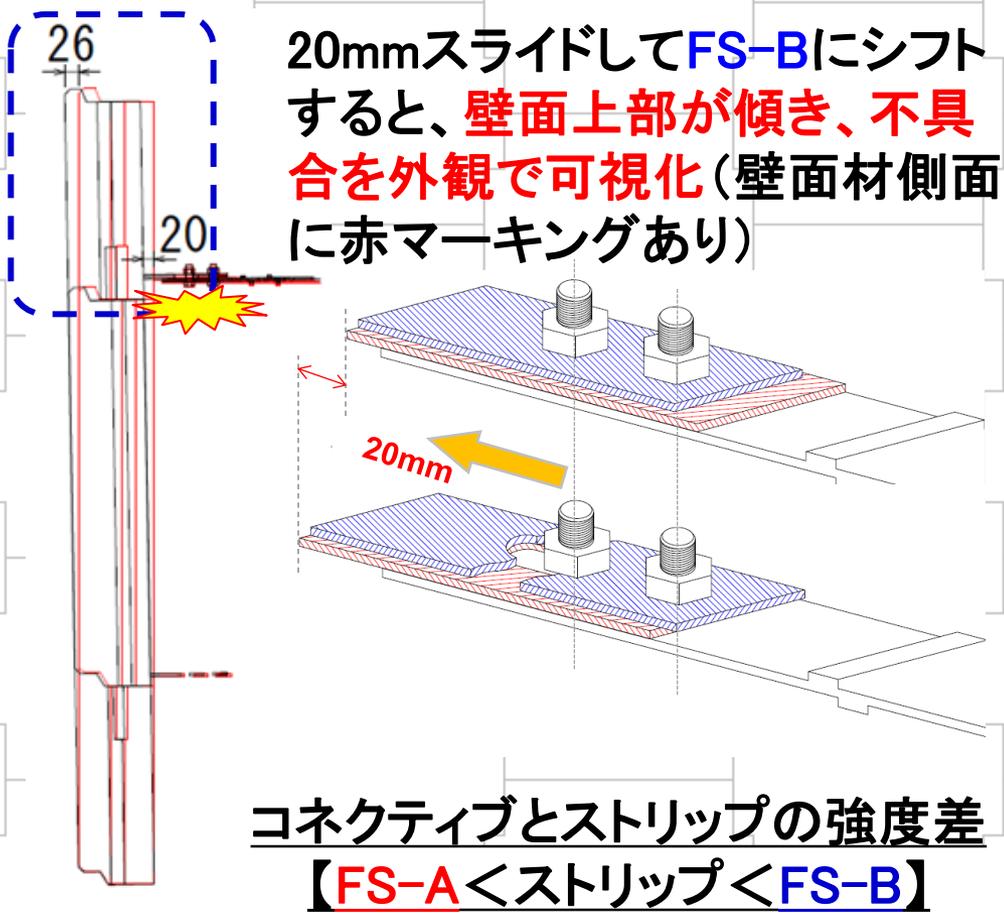
安全を維持する Fail Safe機能



過剰な力が
加わると...

FS-Aが先行破断し、コネクティブ
の長孔に沿って20mmスライドした
後FS-Bにシフト

内部異常可視化 Fail Sensor機能



20mmスライドしてFS-Bにシフト
すると、壁面上部が傾き、不具
合を外観で可視化(壁面材側面
に赤マーキングあり)

コネクティブとストリップの強度差
【FS-A < ストリップ < FS-B】

FSコネクティブ写真

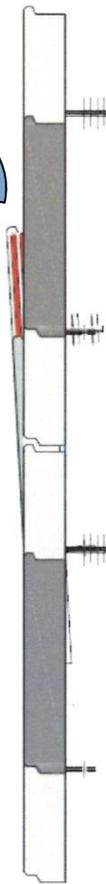
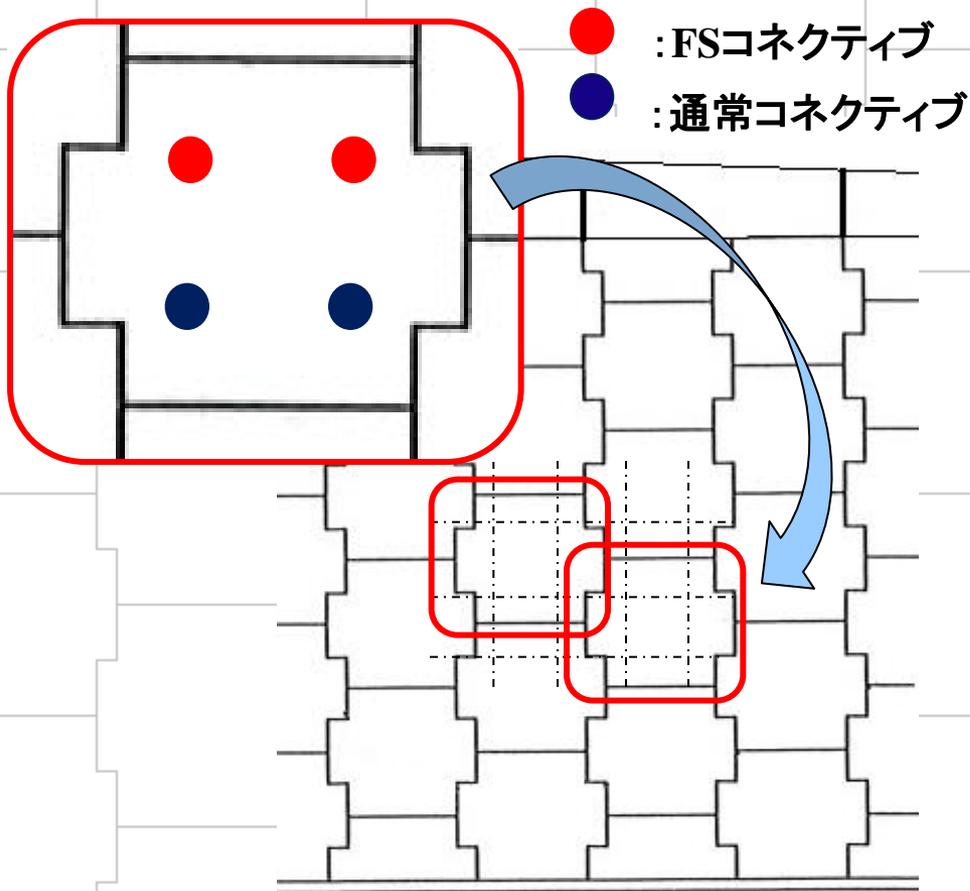


FSコネクティブ

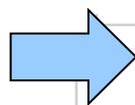


従来コネクティブ

FSコネクティブの配置



壁面材の**上段側コネクティブ**に
FSコネクティブを配置



壁面材の**前傾・
段差を検知**

段差が発生した場合の
マーキングのイメージ



JFE商事 テールワン 株式会社

JFE



